「音楽づくりハンドブック」から抜粋

音楽づくりハンドブック　目次

抜粋版
詳細は、総合教育センター
カリキュラムセンター資料
をご覧ください

1　音楽づくりって、なんだろう？（音楽づくりの価値）
　①　こんな子どもに育てます
　②　こんな題材があります
2　小学校6年間の「音楽づくり」学習系統を立てよう
（6年間を見通した活動）
3　楽譜のひみつからひもとく音楽づくり（楽譜と音楽づくりの関連性）
～　楽譜には、〔共通事項〕がたくさん隠れています～
4　作品を伝えよう（話し合い、グループ活動の留意点）

5　音楽のもと「まずは、作品にしてみよう」

6　音楽のもと「自分なりの表現を工夫してみよう」

7　常時活動はすごい！（思いや意図をもたせる活動）

8　活動の12ステップ（学習過程での活動）

9　題材例（指導のポイントと指導計画）
低学年 1　紙で虫とおしゃべりをしよう（即興的な表現）
　　2　お祭りの太鼓のリズムをつくろう（リズムづくり）

中学年 1　まほうの音をつくろう（即興的な表現）
　　2　好きな俳句にふしをつけよう（旋律づくり）

高学年 1　黒鍵を使ってマイワールドへ（即興的な表現）
　　2　箏で鎌倉のマイテーマをつくろう（旋律づくり）
　　3　マイケチャを楽しもう（リズムづくり）

「音楽づくりハンドブック」から抜粋

6

「音楽のもと」 1

まずは、作品にしてみよう編

一度にいろんな指示をしても、子どもは混乱します。

「何でもいいからつくってごらん」と言っても、どうしてよいか分からなくなるでしょう。

そんな時、子どもの実態に併せて条件の提示をすると効果的です。

そして、〔共通事項〕を手がかりに指導・支援をすれば、子どもにとっても分かりやすく、指導のねらい達成にも役立つでしょう。

〔共通事項〕

- 音楽を形づくっている要　素
- 音楽の仕組み
- 音符や記号用語

「音楽のもと」

子どもの実態や学習過程に応じた適切な指導・支援を目指します

提示する順序

ここに提案されている順序がすべてではありません。子どもの実態や題材によって、指導者が入れ替えてもらってOKです。

発問例

子どもに理解しやすく説明するって、意外と大変です。この発問例を参考に、簡潔で分かりやすい説明を心がけましょう。

〔共通事項〕からこんな要素を考えましょう

- 音色
- リズム
- 速度
- 旋律
- 強弱
- 拍子
- 音階
- 拍の流れやフレーズ
- 和音
- 小節
- 音符
- 休符
- 仕組み（反復、問いと答え、変化など）

□に注目！

「音楽のもと」 まずは作品にしてみよう

「音楽づくりハンドブック」から抜粋

説明は、なるべく簡単で簡潔にしよう

子どもの実態や題材によって、順序は入れ変えて指導してもいいね

「音楽のもと」を参考に、板書やワークシートなども分かりやすくして、音楽づくりをしていこう

	要素	要素の説明	要素の特徴・配慮事項	子どもへの発問例
1	拍子	1打ちの（拍）のつながり	☆強拍を基に○拍子としてひとまとまりで 考えられる。 ☆2拍子は行進曲、3拍子は円舞曲など、 拍子によって曲想に影響を与える。 ☆音楽づくりは、4拍子で活動すると量的にも演奏しやすく、旋律としてまとめやすいと思われる。	いくつごとに拍は、強くなるかな。それが□拍子だよ ○拍子の曲だから、○個ひとまとまりの旋律にするといいよ 拍子の1まとまりを1小節と言うよ 拍の取り方で、旋律の速度も決まるね
2	音符 休符	音の長さや高さを五線譜に表す記号	☆子どもにとって読譜に課題があり、表現活動のつまずきの原因になりがちである。 ☆○●音符や図形音符など、実態に応じ て工夫をして指導をしたい。 ☆音楽づくりは、四分音符を基準とした活 動から始めると比較的取りかかりやすい と思われる。（4拍子は、演奏する時も 安定感があるのと、量的にも多すぎず少なすぎずだと思われます）	音符や休符の種類で音の長さがわかるね 五線譜のどこに位置するかで音の高さを表すね 音符は、世界共通語だよ ○に音符、●に音符を一つずつ入れてみよう 音符は、曲を記録するための大切な記号だね
3	小節	拍子のひとまとまりを五線譜の縦線で区切った1つ	☆導入は、1小節単位で○音符（丸音符と呼ぼう）などを使って音楽づくりを始めるとよい。 例 ○○○○　○○○○ 図の中の○に一つずつ音を入れてみよう。	１小節に□拍子だから、○が□つ入っているんだよ １小節の最初は、強拍と言うけど、強く感じるだろうか １小節が曲の一番小さい単位だよ □拍子になるかで、１小節に入る音符の数が、かわるんだよ
4	音階	音を高低の順に並べたもの	☆たくさんの音階の種類があるが、音楽づくりで扱いやすいものは下記の通りである。 西洋の音階（長音階、短音階）日本の音階（陽音階、陰音階、琉球音階など） 箏の音階（平調子、楽調子、乃木調子など） ☆題材で扱う音階のうち、実態や表現に 使う楽器に合わせて、どの音域を使うか、または活動の効率化を図るために、活動に使う音の数を限定してもよい。	先生が示した音から、自分の思いに合う音を選んでみよう 音階によって感じる雰囲気が違う。その中から自分の思いに近いものを探っていくんだよ 演奏する時のことを考えて、指使いや吹きやすさを考えよう 日本の音階は、5音でつくられていることが多いから、曲が形になったとき、演奏しやすいね
5	リズム	音楽の三要素の一つ。 基となる拍子の中で、音符の長さを組み合わせて変化させたもの	☆四分音符を基準として、自分の思いをリズムにしていくとよい。 ☆ リズムに変化を付けていくようにすると、曲想も変わり、自分の思いを表現できるように探ることができる。このようなリズムの組み合わせを工夫して、オリジナルの作品ができていくと考えられる。	使う音符をどう組み合わせるかでリズムができるよ ●の休符を使うと、また曲の感じが変わるよ 長い音、短い音、休符の組み合わせでリズムがかわるね ○に音を二つ以上入れれば、リズムは細かくなっていく。逆に○を二つ以上つなげると、どう感じが変わるかな リズムによって、曲想の感じを変えることができるね
6	旋律	音楽の基本要素の一つ。リズムを伴った音の連続的な連なり。節(ふし)やメロディーとも言う。	☆音楽づくりで旋律をつくる時は、使う音、リズム、つくる拍数、記録の仕方など、指示することがたくさんあるので、板書や発問を計画的に考えよう。 ☆少しずつ旋律を増やしていったり、つくりながら試行錯誤してよりよい旋律をつくっていく心構えで臨もう。	まずは、音をつなげてみよう。つくりながら、音を変えていって、自分の思いの旋律を完成させよう 旋律は、演奏しやすさも考えてつくるといいよ 「自分がつくりたい」と思う音をつなげていこう 旋律ができたら、演奏の仕方や、強弱、使う楽器など、「表現の工夫編」に進んでいこう

「音楽づくりハンドブック」から抜粋

7 常時活動はすごい!

常時活動は、それぞれの授業の導入でウォーミングアップを兼ねて、簡単な表現活動を行うことです。6年間を見通して継続的に取り入れることで、表現活動に必要な完成や表現の技能を身に付けることができます。

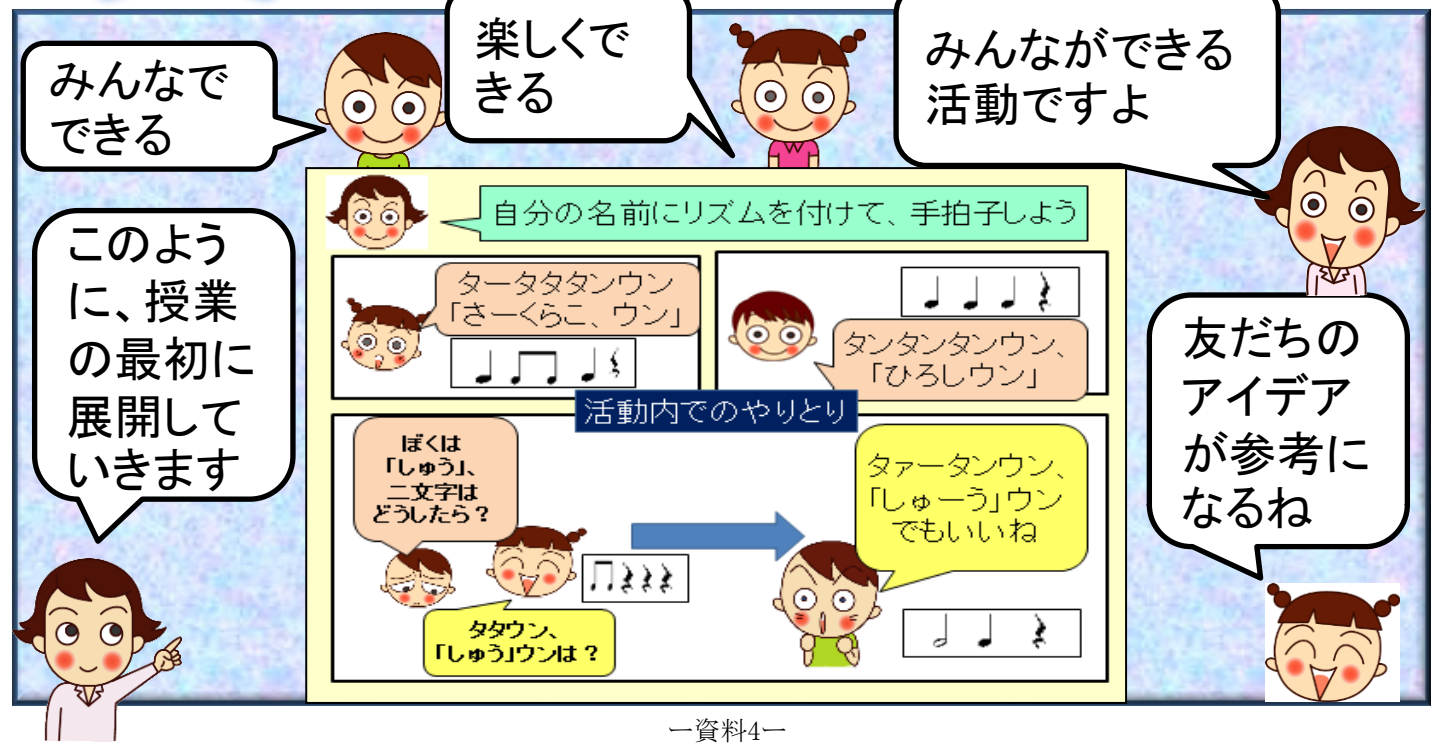
ねらい

- 体を動かす活動として、「音楽のもと」を体感する
- 友達とのコミュニケーションを通して、合わせて表現する楽しさを味わう
- 歌唱や器楽の積み重ねを通して、表現する技能の向上を図る

活動の領域

活動によって、概ね分類できます

- 体を動かす活動
- 即興的な表現
- リズム
- 旋律
- コミュニケーション



「音楽づくりハンドブック」から抜粋

8 活動の12ステップ

子どもたちが意欲をもって活動できるようになるために

曲や楽器の特性から感じたことが思いになる

思いをもつ

忙しそうな曲だな

速い曲だなあ

表現する方法に見通しをもつ

意図をもつ

スタッカートがいいかな

細かいリズムがいいな

音楽のよさを感じ、活動の価値を自分なりに見出して表現する

主体的に表現する

自分のアイデアで曲をつくろう

練習して友達と聴き合おう

活動の12ステップ

過程	学習過程での活動	
感じる	①感受	音楽を感受して意欲をもって聴く。
	②発想	題材の特性を探って、発想力を広げる。
	③即興	即興的に表現する。
	④聴き合い	少人数で思いを共有するために聴き合う。
つなげる	⑤構成	曲を構成する。
	⑥試行錯誤	グループで主体的に試行錯誤する。
	⑦意見交流	作品について意見交流をする。
	⑧言葉	つくった意図を言葉で伝え合う。
深める	⑨習熟	反復練習をして作品のよさを実感する。
	⑩伝え合い	作品を通して友達と伝え合う。
	⑪認め合い	お互いの活動を聴き合い、認め合う。
	⑫振り返り	学習過程を通した活動を振り返る。